

教育

中学の「技術」時代に対応

プログラミング 課題見つけ解決

**変革
2020**

と不満が出た。
この日の授業では、生徒一人一人がプログラムを修正した。メッセージの表示

と不満が出た。
この日の授業では、生徒一人一人がプログラムを修正した。メッセージの表示

と不満が出た。
この日の授業では、生徒一人一人がプログラムを修正した。メッセージの表示

「双方向性」の仕組み学ぶ

と不満が出た。
この日の授業では、生徒一人一人がプログラムを修正した。メッセージの表示

「作ったアプリ（アプリケーション）に満足できないところはないか？課題を解決するプログラムを考えてみて」。一月中旬、愛知県犬山市の南部中学校のコンピュータ室で、技術・家庭科（技術分野）の渡津光司教諭（みづ）が、呼び掛けた。

技術・家庭科 中学校の教科名。以前は技術分野は男子、家庭分野は女子と分かれていたが、2012年度以降、完全に男女共通に。授業時間は1、2年で週2コマ、3年で週1コマ。

生徒たちは前の授業で、コンピュータに入れたプログラム（アプリケーション）を使って、校内のネットワークを介して短文のメッセージを送り合っていた。両方が正しくプログラミングされていなくてメッセージが表示されない。メッセージの表示時間が二秒に設定されていたので、正しくプログラミングできた生徒からも「メッセージがすぐ消えて、読めない」



メッセージアプリを改良する生徒たち。愛知県犬山市の南部中で

創造性を育む

プログラミング教育に限らず、技術・家庭科の技術分野で学ぶ内容は時代に応じ変化している。情報技術（IT）の進歩に合わせて、情報モラルを身に付け、インターネットの仕組みを学ぶ内容が増えた。

木材加工や金属加工でも、単に物を作るのではなく、課題を見つけて、設計に反映させて作る「ものづくり」の基礎となる考え方を重視している。

磯部准教授によると、プログラミングの学習は、課題を見つけて、試行錯誤し、修正する流れを体験でき「イノベーションする力、創造性を育む技術教育の方向性とも合致する」という。